

研究主題

深い学びにいたる授業

～「深い学びの技法」を基に構成する
学習過程に着目して～



新潟県中学校教育研究会
指定研究（１年次）
第１回合同全県部会要項

[日時]

令和８年５月１９日（火） １４：１５ ～ １６：３０

[会場]

デンカビックスワンスタジアム 大会運営室４

次第

○第1部 全体会（指定研究推進・運営の説明）

- 14:15-15:20 ・ 開会あいさつ 県中教研 会長 長谷川 裕高
・ 説明と質疑
・ 閉会あいさつ 県中教研 副会長 玉木 暢
- 15:20-15:30 座席移動作業・休憩

○第2部 第1回全県部会（教科・領域部会）

- 15:30-16:30 ・ 自己紹介
・ 目指す深い学びの姿の共有
・ 1年次の研究の計画の共有

終了した教科・領域ごとに解散

目次

01 県中教研について

02 指定研究事業について

03 「深い学びにいたる授業」について

04 指定研究事業の進め方について

05 指定研究推進費について

06 旅費補助について

07 年間スケジュールについて

01 県中教研について

県中教研とは？

新潟県中学校教育研究会（県中教研）は、新潟県中学校教職員を会員とする教育研究団体です。

会員一人一人の研究意欲の高揚と資質・能力の向上を図ります。

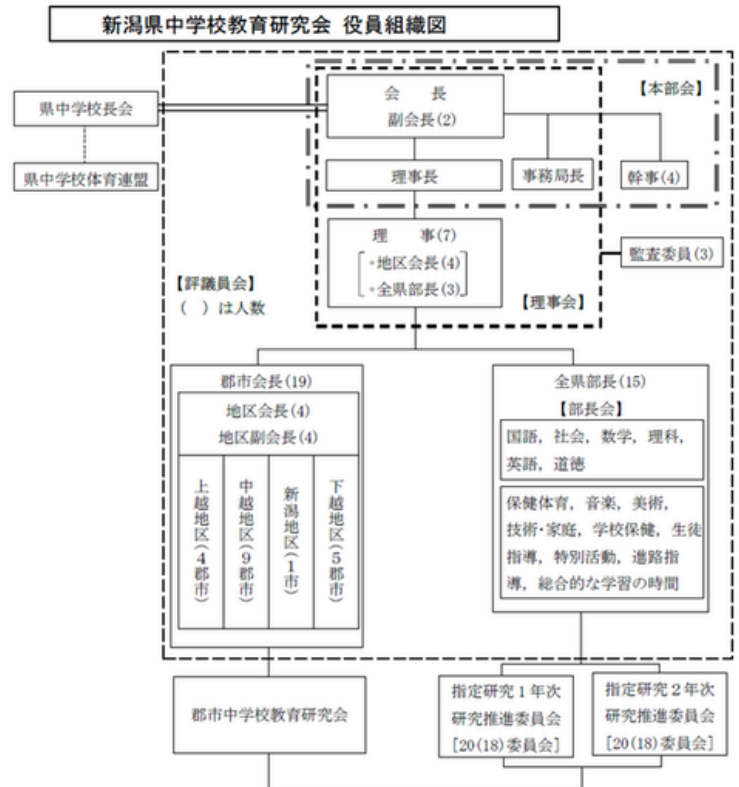
19の郡市中教研を単位とし、15の教科・領域の部があります。指定研究推進事業を中心に、指定を受けた各郡市中教研で研究会を実施し、教育研究の成果を発信・共有を図っています。



組織体制は？

県中教研は、本部会、理事会、評議員会、地区会長会、郡市会長会、15部会全県部長会の組織があります。

指定研究事業は、15部会の事業に位置付けられ、各郡市中教研と連携して事業を進めています。



これまでの歩みは？

令和5年度に創設60周年記念を迎えました。創設50周年記念大会以降は「学び合う授業」をテーマに、ファシリテーションを核としての授業改革を全県で推進してきました。その後、学習指導要領の改訂に合わせて、県内の会員の資質・能力の向上を目指した「深い学びにいたる授業」について研究を進めています。



02 指定研究事業について

資料p.5~6

指定研究とは？

各郡市の研究推進委員会による「深い学びにいたる授業」の授業研究、研究会による授業提案などを通して、会員一人一人の研修意欲の高揚と資質・能力の向上を目指す事業です。

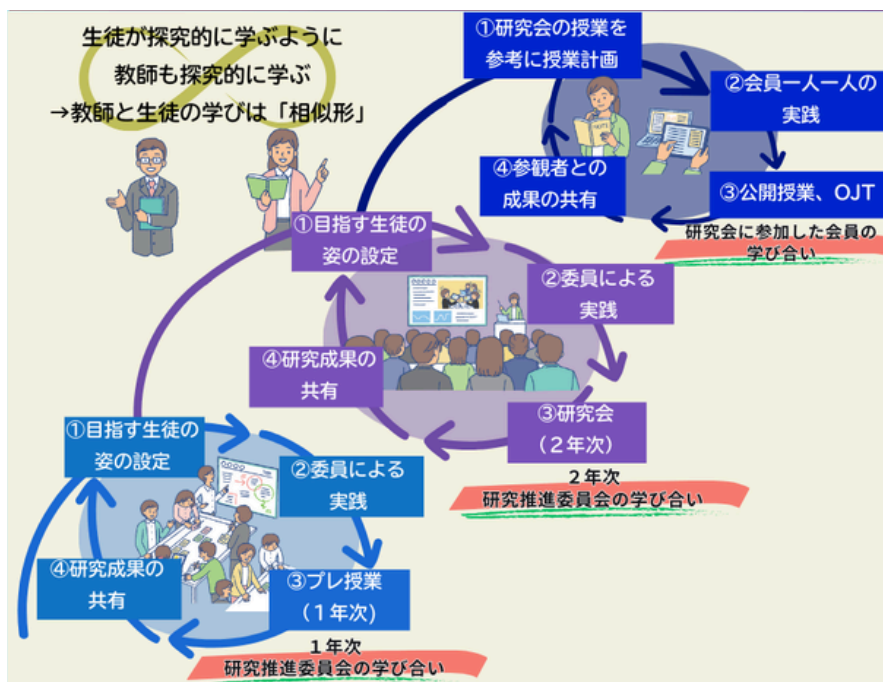


指定研究を通して得られる成果は？

「研究推進委員同士の学び合い」と「研究会に参加する会員の学び合い」の高まりにあります。

研究推進委員会で、各教科・領域で「深い学びにいたる生徒の姿」とそれに迫るための手立てを構想します。

そして、お互いに授業実践を共有し、研究会で成果を発表します。研究会の授業協議会で得た新たな学びを、自校で実践することで、会員が学び合い、高め合う「深い学び合い」が活性化します。



指定研究の実施状況は？

(1) グループ

4地区（上越、中越、新潟、下越）ごとに指定研究を郡市中教研で受けます。

指定研究には、2年に1回に研究会を実施するAグループ（国語、社会、数学、理科、英語、道徳）と、4年に1回に研究会を実施するBグループ（音楽、美術、保健体育、技術・家庭、学校保健、特別活動、総合的な学習の時間）があります。Bグループは、継続性を確保するために、2地区ごとに2年ずれた指定になっています。

(2) 推進機関

事業の推進期間は2年間です。2年次に研究成果の発表として、研究会を実施し、授業公開を原則で行います。合わせて協議会や講演会なども実施可能です。

1年次は、プレ授業公開や研究推進委員同士で授業を公開し合い、研究を進めます。

※令和9年度から持続可能な在り方を踏まえ、指定研究の指定数、ローテーションの変更を実施します。

	部会	地区	R7	R8	R9～
A	国語		①	②	指定研究の新制度に移行
	社会		②	①	
	数学		①	②	
	理科		②	①	
	英語		②	①	
	道徳		①	②	
B	音楽	上新	②		
		中下		①	
	美術	上新			
		中下	①	②	
	保健体育	上新		①	
		中下	②		
	技術・家庭	上新	①	②	
		中下			
	学校保健	上新	②		
		中下		①	
	特別活動	上新	①	②	
		中下			
	総合的な学習	上新			
		中下	①	②	

03 「深い学びにいたる授業」について

重点1



生徒の学び

「深い学びの技法」を基に学習過程の充実を図り、「深い学び」を確かなものとし、生徒の資質・能力を育成します！

「深い学びの技法」を基に学習過程の充実を図る

①「深い学び」とは？

「深い学び」とは、生徒が学習内容を獲得する中で、既知の知識や技能を課題などに関連付け、精緻化するなど、思考や認識が高度化している様相をいいます。

②「深い学び」に向かうためには？

県中教研では、生徒が「深い学び」に向かうために、「深い学びの技法」を基に学習過程の充実を図ることに着目しています。生徒は学習内容を獲得しながら、「深い学びの技法」を活用し、思考や認識を高度化していきます。そのために、教師はそれが可能となる学習過程を構想するのです。

③ 単元・題材や授業をどのように組み立てますか？

下の図のような学習過程で、生徒は学習内容を獲得しながら、資質・能力を存分に活用・発揮していきます。

そのために、教師は、生徒が「深い学びの技法」を活用できるように手立てを講じるのです。

学習過程を通して、生徒は学習内容を精緻化、概念化、身体化することで理解を深め、その結果、資質・能力を異なる状況でも活用・発揮できるようになります。

次の3つの学習過程に応じて、手立てとなる「技法」が下表のように整理できます。

- ①学習対象に対する目的や課題、見通しをもつ「設定」の過程
- ②課題解決を図る「思考・解決・表現」の過程
- ③学んだことを俯瞰したり、振り返ったりする「評価」の過程



教師は、生徒が「深い学びの技法」を活用できるように手立てを講じる

過程	「深い学びの20の技法」
設定	①学んだ知識を活用して課題や目標を設定する
	②知識やデータに基づいて仮説の設定や検証をする
	③視点・観点・論点を設定して思考や表現をする
	④ R-PDCAサイクルを設定して活動や作品を改善する
思考	⑤資料やデータに基づいて考察したり検証したりする
	⑥複数の資料や観察結果の比較から結論を導く
	⑦視点の転換や逆思考をして考える
	⑧異なる多様な考えを比較して考える
解決	⑨学んだ知識や技能を活用して思考や表現をする
	⑩仲間と練り合いや練り上げをする
	⑪原因や因果関係、関連性を探る
	⑫学んだ知識・技能を活用して事例研究をする
表現	⑬理由や根拠を示して論理的に説明する
	⑭学習モデルを活用して思考や表現をする
	⑮自分の言葉で学んだことを整理しまとめる
	⑯要素的な知識や知見を構造化・モデル化する
評価	⑰既製の資料や作品を批判的に吟味検討する
	⑱身につけた資質・能力をメタ認知し成長につなげる
	⑳学習成果と自己との関わりを振り返る
	㉑学んだことを生かして、次の新しい課題を作る

【参考・引用文献】

○田中 博之 (2023)、「中学校における深い学びの在り方とこれからの授業改善の方向」『新潟県中学校教育研究会 授業情報誌Class』8号, pp.6-12.
○田村 学 (2024)、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた『個別最適な学びと協働的な学び』の充実」『新潟県中学校教育研究会 授業情報誌Class』9号, pp.6-13.
○石井 英真 (2025)、「『中核的な概念』を軸にした深い学びの実現」『新潟県中学校教育研究会 授業情報誌Class』10号, pp.6-13.

04 指定研究事業の進め方について

指定を受けた郡市中教研の教科・領域部長が「研究推進責任者（副部長）」となり、特設の研究チーム（研究推進委員会）を組織します。全県部長、郡市中教研会長（他にも、郡市によっては、教科・領域の担当指導校長）、会場校長に指導・相談を受けながら、指導者と研究推進委員の選出、委嘱依頼までの手続きを行います。

「会場校」は、事業の2年間の最終年度に、研究会で研究成果の発表として授業公開を行う会場を示します。

ステップ1 研究推進委員会の組織（5月下旬～6月末まで）

資料p.7～9、p.34

- 1.副部長は、関係者から指導を受けながら、指導者、研究推進委員の選出をする。郡市中教研を中心に、全員が参画できる適切な人数を選出する。（例：4～9名程度）
 - 2.副部長は、「合同全県部会資料」の委嘱の方法・流れを参考に、委嘱までの手続きを取る。
- ※「委嘱承諾依頼書」は県中教研のHPからダウンロード可



- ☐指導者
（大学教授、指定郡市・地区内の教科・領域担当校長、各地区教育事務所指導主事、各市町村教育委員会指導主事など）
- ☐郡市指導主事（指導者も兼ねる可能）
- ☐副部長
- ☐会場校（教科・領域担当者、会場責任者）
- ☐郡市委員（郡市外委員も可）

ステップ2 計画書の提出（6月末まで）

資料p.25～26、p.30

[1・2年次共通]

- 1.副部長は、様式①研究推進委員会計画書を作成します。年間5～8回程度の委員会を設定してください。
- ※様式データは県中教研HPからダウンロード可
- 2.様式①を6月末までに県中教研事務局にメールで提出してください。

[2年次]

様式⑤研究主題報告も6月末日までに提出してください。第1回の委員会が6月に間に合わない場合、第1回の委員会後、速やかに提出してください。

県中教研 研究推進委員会

計画・報告

地区

教科・領域

年度

令和5年度

県中教研 研究推進委員会

計画・報告

地区

教科・領域

年度

令和5年度

計画・報告

地区

教科・領域

年度

令和5年度

計画・報告

地区

教科・領域

年度

令和5年度

ステップ3 第1回研究推進委員会の開催準備（6月中旬～下旬）

資料p.37～38

指導者も含めた各研究推進委員の所属長宛て、本人宛ての派遣依頼、案内文書を送付する。

※「派遣依頼」、「案内文書」のデータは県中教研HPからダウンロード可

県中教研 研究推進委員会

計画・報告

地区

教科・領域

年度

令和5年度

計画・報告

地区

教科・領域

年度

令和5年度

計画・報告

地区

教科・領域

年度

令和5年度

県中教研 研究推進委員会

計画・報告

地区

教科・領域

年度

令和5年度

計画・報告

地区

教科・領域

年度

令和5年度

計画・報告

地区

教科・領域

年度

令和5年度

p.5

ステップ4 研究推進委員会の開催（6月下旬～1月下旬まで）

研究推進委員会での主な協議事項

- ・ 年間計画づくり
- ・ 研究主題・深い学びの姿・育成を図る資質・能力の検討
- ・ 深い学びの姿を実現するための手立て（深い学びの技法と学習過程）の検討
- ・ 各地区の教育課題に関連した取り組み
- ・ プレ授業または研究会の準備
- ・ 授業情報誌Classの原稿検討（2年次）

令和6・7年度指定 社会 長岡市・三島郡 研究推進委員会の1年次の実践記録

1年次のプレ授業を見据えた計画づくり

令和6・7年度指定 社会 長岡市・三島郡 研究推進委員会の実践記録（1年次）



①「構造化された問い」と自らの価値や行動を決定する活動を取り入れた授業実践
→ 焦点化された研究テーマ

③委員同士の公開授業の積み重ね
→ 都市全体で研究を推進



②「構造化された問い」を解決するために、「単元内自由進度学習」を取り入れる
→ 新しい教育実践の試み

④指定郡市の教育内容とリンクさせた手立ての研究
→ 長岡市教育委員会「授業イノベーション」

第1回: 6月27日	①県中教研の方針確認 ②前年度の副部長から研究の概要について ③「深い学びにいたる授業」に至るための方策検討
第2回: 8月 8日	①研究主題の決定 ○公開授業に向けた単元、授業構想の検討
第3回: 8月22日	①プレ授業指導案検討 ②公開授業指導案検討
第4回: 10月 8日	①公開授業(長岡市立宮内中学校) ②公開授業指導案検討
第5回: 10月18日	①公開授業(長岡市立堤岡中学校) ②公開授業指導案検討
第6回: 11月12日	①公開授業(長岡市立宮内中学校) ②プレ授業指導案検討
第7回: 11月20日	①1年次・プレ授業 ②協議会
第8回: 12月20日	①1年間の振り返り ②来年度に向けた研究計画の検討

研究推進費を活用し、県外の研究校への視察

令和6・7年度指定 学校保健 上越市 研究推進委員会の2年次の実践記録

①2年次の研究会を見据えた計画づくり

令和6・7年度指定 学校保健 上越市 研究推進委員会の実践記録（2年次）



③委員同士の公開授業の積み重ね
→ 都市全体で研究を推進



②研究会当日の公開授業
→ 研究推進委員会で何回も本時の授業を公開・検討

④参加者のつながりを大切に
→ 研究会に参加することのよさを最大化

⑤指導者による学術的・専門的な視点からのご指導
→ 公開授業による実践と、専門的な理論の往還

第1回: 5月 2日	2年次の研究計画の検討
第2回: 6月 3日	2年次の研究計画の共有 公開授業計画確認
第3回: 6月26日	①公開授業(上越市立頸城中学校)－研究会授業の本時 ②協議会
第4回: 7月17日	①公開授業(上越市立柿崎中学校)－研究会授業の本時 ②協議会
第5回: 8月21日	①研究会に向けた指導案検討 ②研究会当日の検討
第6回: 9月11日	①公開授業(上越市立吉川中学校)－研究会題材を他学年で実施 ②協議会
第7回: 10月 7日	①研究会指導案検討 ②研究会計画最終確認
第8回: 11月19日	研究発表会

研究推進委員会をより推進するポイント

委員同士の授業の見せ合い

- ・ 研究推進委員会では検討会や授業の見せ合いによる「教師の学び合い」の推進が行われるとともに、指定研究の成果・提案の発信によって指定研究地区の会員全体の「教師の学び合い」を広げていきましょう。

指導主事等の研究推進委員会への参加

県中教研が進める事業の状況が県・郡市教育委員会に伝わることで、行政と県中教研が連携した取組を行えるようにしましょう。

指導者または委員のどちらかとして参加していただくようにしましょう。

※ 柏崎・刈羽は校長会、中教研、中体連では上越地区ですが、行政(教育委員会、教育事務所)は中越地区となっていることをふまえて連絡をしてください。

ステップ5 第2回全県部会（1年次：8月3日、2年次7月下旬～8月上旬）

進捗状況の共有やプレ授業、研究会に向けた情報共有

8月3日（月）
オンライン開催
県中教研の主導で開催

【1年次】

- ① 進捗状況
- ② プレ授業の準備状況、公開授業の構想確認
- ③ 授業情報誌Class原稿確認
- ④ 今後の進め方

7月下旬～8月上旬
オンライン開催
各部会の計画で開催

【2年次】

- ① 進捗状況確認
- ② 研究会の準備状況、公開授業の構想確認
- ③ 授業情報誌Class原稿の原稿確認
- ④ 今後の進め方

ステップ6 授業情報誌Classの原稿執筆（8月24日まで）

資料p.16～24

目的と誌面の概要

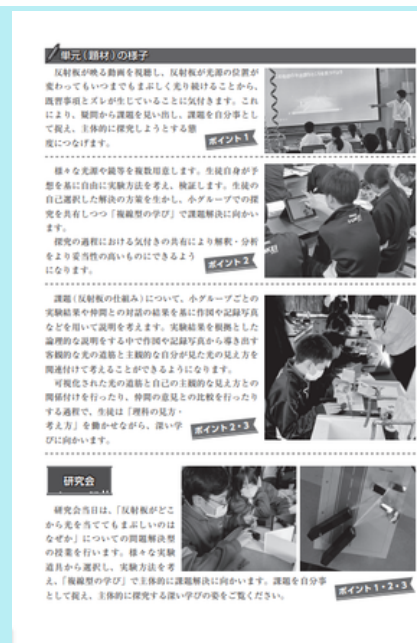
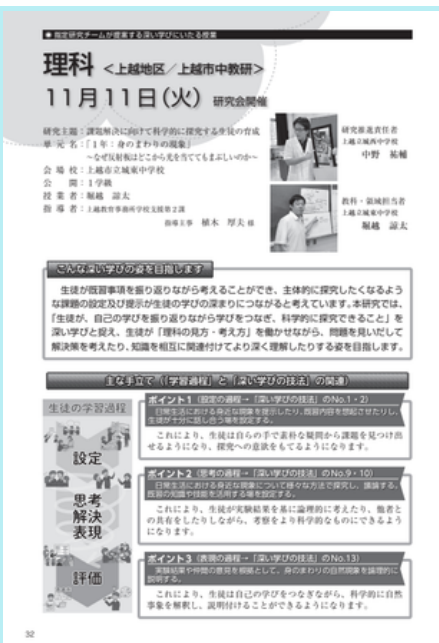
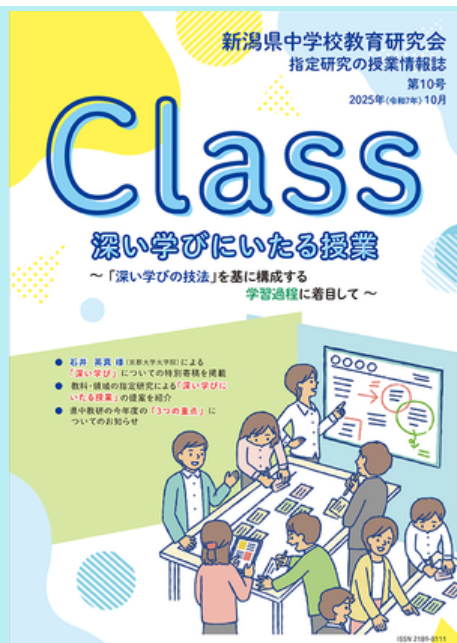
[目的]

- ・ 会員が、「深い学びにいたる授業」の具体的なイメージやアイデアを得る。
- ・ 発刊を通じて、指定研究の提案内容が、具体性のあるものにする。
- ・ 指定研究と都市事業の成果を紹介する。

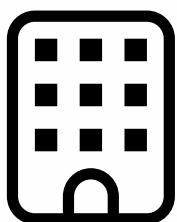
[概要]

- ・ 目指す深い学びの姿（指定研究2年次）
- ・ 深い学びにいたるポイント・過程（指定研究2年次）
- ・ 指定1年次の進捗報告（指定研究1年次）

※ 原稿を全県部長へ8月24日（月）までに提出。全県部長は、各地区の原稿を点検・修正したものを8月27日（木）までにまとめて県中教研事務局へ提出。提出後、印刷所からの校正原稿で確認を行う。10月上旬に発行し、指定研究会に間に合うように発送。



研究会開催までの流れ



7月下旬

県中教研は、すべての研究会の日程などを含めた1次案内を全中学校に送付



8月～9月

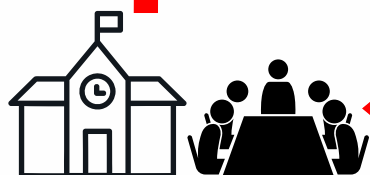
各研究推進委員会は、研究会の2次案内を作成。その後、副部長は、各委員会の顧問校長、会場校の校長などへ起案
※研究会の案内は県中教研HPからダウンロード可



開催1ヶ月～2ヶ月前

会場校の責任者は、2次案内を送付対象の中学校と研究会参加予定の評議員に送付
※送付対象の中学校は、各委員会に委ねる（例：地区内、近隣郡市）
※県内中学校のアドレスは、県中教研HPからダウンロード可

研究会開催



開催前

各研究推進委員会は、会場校と連携し、研究会の会場準備、要項、指導案の印刷などを進める。副部長は、適宜、各委員会の顧問校長、会場校の校長などへ確認してもらう



開催1ヶ月～2ヶ月前

各研究推進委員会は、研究会の参加者を集約し、研究会の準備を進める。
※参加者の申し込み状況に応じて、リマインドメールを送付することも可能



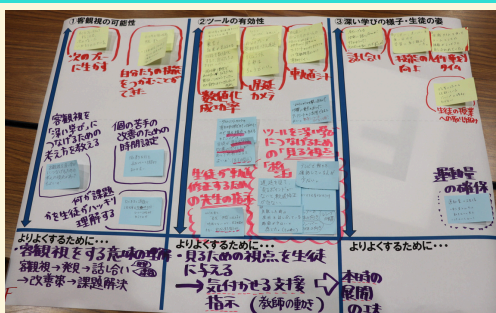
副部長は、2次案内データを県中教研に提出
※県中教研はHPに掲載する

研究会当日の工夫（過去の実践の一部紹介）

研究推進委員会の取組の掲示



ファシリテーションを活用した協議会の工夫



過去の指定研究データ

（令和6年度、7年度）

- 研究会の要項、指導案、資料、研究推進委員会の資料など）
- 本資料は、研究推進委員会の活動を推進するための参考資料です。引用、転載、配布等の二次利用は固くお断りいたします。

当日の配付資料
に掲載

ステップ7 プレ授業（1年次の場合）

資料p.42～44

プレ授業開催までの流れ

郡市の一斉研に合わせた開催の場合

- ① 研究推進委員会で案内を作成
※プレ授業の案内は県中教研HPからダウンロード可
- ② 郡市の一斉研の案内方法に合わせて、担当者が案内を郡市内の関係者に送付
※指導者、全県部長、他地区の副部長にも案内を送付
- ③ 副部長は案内を県中教研にも提出
※県中教研はHPに掲載する
- ④ 一斉研に合わせてプレ授業を実施
※研究説明などで、県中教研の指定研究を兼ねていることも説明

通常の開催の場合

- ① 研究推進委員会で案内を作成
※プレ授業の案内は県中教研HPからダウンロード可
- ② プレ授業の参加者の検討と送付
※指導者、全県部長、研究推進委員、他地区の副部長は参加者に必ず含める
※郡市内の会員への案内については、各郡市のやり方に一任する
- ③ 副部長は案内を県中教研にも提出
※県中教研はHPに掲載する
- ④ プレ授業を実施
※研究説明などで、県中教研の指定研究を兼ねていることも説明

ステップ8 研究会のデータを県中教研事務局に送付（2年次のみ）

[研究会後、県事務局へ下記のデータで共有可能なものを提出]

- ① 当日要項・指導案・資料など
- ② 写真記録（会場、授業、協議会など）

ステップ9 第3回全県部会（1・2年次共通 12月後半 日程は各部の計画）

1年間の研究の成果と課題の共有

資料p.27～28（1年次） p.31～32（2年次）

オンライン開催 各部会の計画で開催

- ・ 1年次の副部長は、「様式③経過の概要報告書」を作成し、報告書をもとに成果と課題の共有
- ・ 2年次の副部長は、「様式⑥成果の概要報告書」を作成し、報告書をもとに成果と課題の共有



報告書の提出

- ・ 副部長は、上記の報告書を1月8日（金）までに所属する地区事務局と、全県部長にメールで提出する。その後、地区事務局は各地区の原稿を1月15日（金）までにまとめて県中教研に提出する。

05 研究推進費などについて

研究推進費とは？

資料p.9~10

[研究推進費]

県中教研から各研究推進委員会に2年間の指定研究で研究を推進するために必要な費用（講師謝礼、旅費、消耗品費、会議費など）を支給する。

[費用]

- ・1年次 50,000円（2年次に繰り越し可能）
- ・2年次 30,000円（1年次からの繰り越しを合算する。
残金がある場合、2年次末に返金する）

研究推進費の用途は？

資料p.29（1年次） p.33（2年次）

[用途（例）]

✓講師謝礼

・1年次の夏休み期間、プレ授業（1年次）、研究会（2年次）などの場面で、講師を招いた講演を実施した場合に活用。各市町村の財務規則運用要綱・謝礼基準を参考。

✓旅費

- ・指導者や全県部長のプレ授業（1年次）の旅費→遠方への出張依頼になるため
- ・研究推進委員の他地区の研究会参加（1年次・2年次）の旅費→遠方への出張になるため
- ・研究推進委員の県外の研究会参加の旅費（1年次・2年次）→遠方への出張になるため

✓消耗品費

- ・教材開発費、資料、書籍、備品、御茶代など

※個人のクレジットカードやポイントカードを利用した購入は不可。業者、店舗、インターネットサイトなどへは、現金払いを原則とする。

※教材開発に関係ないICT機器（例：プロジェクター、Apple TVなど）などの消耗品を会場校だけが購入し、そのまま会場校の備品になることがないようにする。

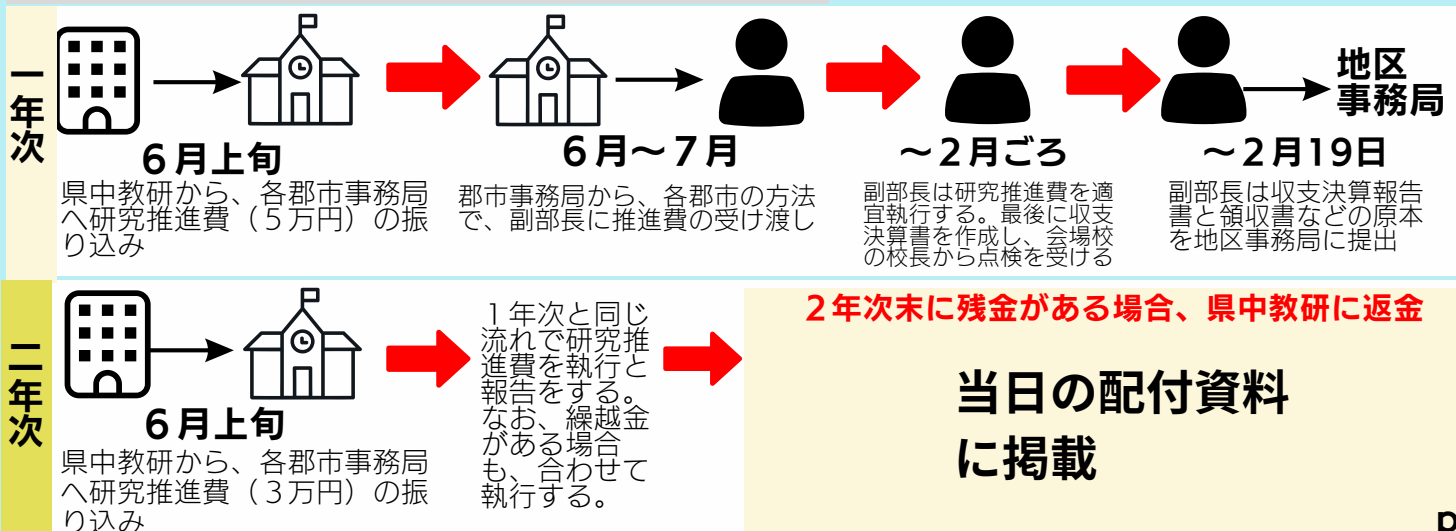
✓会議費

→会場費など

[報告]

「県中教研〇〇地区〇〇部」等の推進委員会がわかる名称の領収書（レシート形式も可）の原本をA4用紙（様式任意）に添付し、収支決算書（1年次：様式④ 2年次：様式⑦）とともに地区事務局（上越、中越、新潟、下越）に郵送する。

研究推進費の執行から報告までの流れ



06 旅費補助について

旅費補助とは？

資料p.25-26

[旅費補助]

県中教研から各研究推進委員会に毎年（1年次、2年次）に研究推進委員会開催にともなう旅費の補助を一部支給する。

[費用]

- ・上限15,000円

旅費補助の申請から支給までの流れ（1・2年次共通）

ステップ1 様式①研究推進委員会の計画の作成・提出（～6月末）

県中教研 研究推進委員会		計画・報告	地区	教科・領域	年度	合計金額
○ 県中教研費補助で出費 ● 以外では県 費補助として 申請し、別途旅費として別途支出		実施日				
開催場所		会場				
参加人数		参加人数				
Y0						
1	研究推進委員長	氏名	所属	地区	教科・領域	旅費
2	研究推進委員					
3	研究推進委員					
4	研究推進委員					
5	研究推進委員					
6	研究推進委員					
7	研究推進委員					
8	研究推進委員					
9	研究推進委員					
10	研究推進委員					

副部長は、様式①研究推進委員会計画書を作成します。年間5～8回程度の委員会を設定してください。

※様式データは県中教研HPからダウンロード
様式①を6月末までに県中教研事務局にメールで提出してください。

ステップ2 各回の研究推進委員会の開催ならびに様式①への入力



旅費を県中教研からの研究推進費や旅費補助から支出する場合と、各校の配当旅費をお願いする場合で、案内・派遣申請に記載する旅費の支出元を確実に明記するようにする。15,000円を越えた場合、それ以降の会は各校の配当旅費でお願いしてください。

ステップ3 様式②研究推進委員会の報告の作成・提出（最終回の2週間前まで）

県中教研 研究推進委員会		計画・報告	地区	教科・領域	年度	合計金額		
見本		実施日	7/24(水)	7/24(水)	8/25(金)	10/1(水)	11/13(金)	12/17(水)
開催場所		会場						
参加人数		参加人数						
Y14,540								
1	研究推進委員長	氏名	所属	地区	教科・領域	旅費		
2	研究推進委員	氏名	所属	地区	教科・領域	旅費		
3	研究推進委員	氏名	所属	地区	教科・領域	旅費		
4	研究推進委員	氏名	所属	地区	教科・領域	旅費		
5	研究推進委員	氏名	所属	地区	教科・領域	旅費		
6	研究推進委員	氏名	所属	地区	教科・領域	旅費		
7	研究推進委員	氏名	所属	地区	教科・領域	旅費		
8	研究推進委員	氏名	所属	地区	教科・領域	旅費		
9	研究推進委員	氏名	所属	地区	教科・領域	旅費		
10	研究推進委員	氏名	所属	地区	教科・領域	旅費		

副部長は、様式②研究推進委員会報告書を作成し、県中教研事務局にメールで提出。各回の研究推進委員会の実記録を入力してください。なお、県中教研の旅費補助については、15,000円以内になるように申請してください。急な計画の変更で、15,000円を若干越える場合は、事前に相談してください。

ステップ4 県中教研から会計担当者に旅費補助と領収書を現金書留で郵送

旅費補助をもらう委員別に旅費を封筒詰めしたものを会計担当者に現金書留で郵送します。最終回で対象の委員に渡していただき、領収書にサインをもらってください。その後、同封する返信封筒で県中教研に早めに返送してください。

07 年間スケジュールについて

1 年次

時期	内容	提出物等
5/19(火)	合同全県部会[主催：県中教研] デンカビックスワンスタジアム会議室 ・全体会 ・教科部会（第1回全県部会）	
6月	研究推進委員会の組織づくり[全県部長、副部長] ①指導者・指導主事の選出、委嘱依頼 ②委員の選出、委嘱依頼 ③計画書作成 第1回研究推進委員会[企画運営：副部長] ○教科・領域で目指す深い学びの姿はどのような姿か	様式①研究推進委員会計画 [6月末まで県事務局へメール提出]
7～8月	第2回研究推進委員会[企画運営：副部長] ①目指す深い学びの姿の実現にはどのような手だて（「深い学びの技法」「学習過程」）が有効か ② ①から、研究主題はどのように表現すべきか	
8/3(月)	第2回全県部会[主催：県中教研] <u>オンライン開催</u> ①進捗状況 ②プレ授業の準備状況、公開授業の構想確認 ③授業情報誌 Class 原稿確認 ④今後の進め方	授業情報誌 Class 原稿 [仕上がり次第、全県部長へ] [副部長は、8/24(月)まで全県部長へメール提出] [全県部長は、各地区の原稿を点検・修正したものを8月27日(木)までにまとめて県中教研事務局へ提出]
8～11月	第3回研究推進委員会[企画運営：副部長] 第4回研究推進委員会[企画運営：副部長] 第〇回研究推進委員会[企画運営：副部長] ・研究主題・研究内容の検討 ・推進委員会メンバーによるプレ授業・検討会 (10月上旬：授業情報誌 Class 発行)	授業情報誌校正作業(9月上旬～9月下旬)
	プレ授業開催（公開）	公開のプレ授業実施予定を県事務局へメール報告→HP掲載
11～12月	第〇回研究推進委員会 [企画運営：副部長] ・今年度の成果と課題 ・様式③経過の概要報告書作成 地区運営推進委員会（主催：地区中教研）	様式②研究推進委員会報告 [最後の研究推進委員会の2週間前まで県事務局へメール提出] 旅費配付後、領収書を県事務局へ提出
12月後半 (日付は各教科部による)	第3回全県部会[企画運営：全県部長、副部長] <u>オンライン開催</u> ・今年度の成果と課題を共有（様式③）	様式③経過の概要報告書 [副部長は、1/8までに地区事務局と全県部長にメール提出。その後、地区事務局は各地区の原稿を1月16日までにまとめて県中教研へ提出]
2月		様式④収支決算書・領収書綴り [副部長は、2/19まで地区事務局へ提出。地区事務局は各地区の原本資料をまとめて県中事務局へ提出]

2 年次

時期	内容	提出物等
5/13(水)	合同全県部会[主催：県中教研] デンカビックスワンスタジアム会議室 ・全体会 ・教科部会（第1回全県部会）	
5～6月	研究推進委員会の再組織[全県部長、副部長] ①指導者・指導主事の選出、委嘱依頼 ②委員の確認 ③計画書作成 第1回研究推進委員会[企画運営：副部長] ①1年次の成果と課題確認→主題、手だての確認 ②授業情報誌 Class 原稿について ③研究会について	様式①研究推進委員会計画 様式⑤研究主題等報告 [6月末まで県事務局へメール提出]
7～8月	第2回研究推進委員会[企画運営：副部長] ①単元構想・指導案の検討 ②授業情報誌 Class 原稿について (7月：県事務局より1次案内を全県発信、HP掲載)	
8月 (日付は各教科部による)	第2回全県部会[企画運営：全県部長、副部長] <u>オンライン開催</u> ①進捗状況確認 ②研究会の準備状況、公開授業の構想確認 ③授業情報誌 Class 原稿の原稿確認 ④今後の進め方	授業情報誌 Class 原稿 [仕上がり次第、全県部長へ] [副部長は、8/24(月)まで全部長へメール提出] [全県部長は、各地区の原稿を点検・修正したものを8月27日(木)までにまとめて県中教研事務局へ提出]
8～11月	第3回研究推進委員会[企画運営：副部長] 第4回研究推進委員会[企画運営：副部長] 第〇回研究推進委員会[企画運営：副部長] ・研究会当日の持ち方 ・推進委員会メンバーによるプレ授業・検討会 (県事務局：2次案内をHP掲載) (10月上旬：授業情報誌 Class 発行)	授業情報誌校正2回(9月上旬～9月下旬) 会場校責任者が2次案内を作成し研究会1ヶ月前をめどに以下にメール等で送付 ①県事務局へメール提出→HP掲載 ②地区内等の各校 ③全県教科部の部長、他地区副部長、会場校 ④来賓・指導者等
研究会	研究会開催(公開)	[研究会後、県事務局へ下記のデータで共有可能なものを提出] ①当日要項・指導案・資料など ②写真記録など
11～12月	第〇回研究推進委員会(最終)[企画運営：副部長] ・指定研究の成果と課題 ・様式⑥成果の概要報告書作成 ・旅費補助からの旅費支給 地区運営推進委員会(主催：地区中教研)	様式②研究推進委員会報告 [最終の研究推進委員会の2週間前まで県事務局へメール提出] [旅費領収書を県事務局へ提出]
12月後半 (日付は各教科部による)	第3回全県部会[企画運営：全県部長、副部長] <u>オンライン開催</u> ・次の指定研究に向けて成果と課題を共有(様式⑥)	様式⑥成果の概要報告書 [副部長は、1/8までに地区事務局と全県部長にメール提出。その後、地区事務局は各地区の原稿を1月16日までにまとめて県中教研へ提出]
2月		様式⑦収支決算書・領収書綴り [副部長は、2/19まで地区事務局へ提出。地区事務局は各地区の原本資料をまとめて県中事務局へ提出]